

令和2年度 第1回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日 時 令和2年7月31日(金) 13:00～14:30
- 2 場 所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 中村委員(会長)、伊藤委員、上坂委員、小泉委員、東出委員、分家委員、吉川委員
- 4 審議内容(重点審議対象箇所について、パワーポイントで説明)
【土木部事業】(市井次長) 重点審議対象8件
【農林水産部事業】(佐藤次長)

【土木部説明に対する主な意見】

○伏木富山港（富山地区）臨港道路西宮線 （委員）

- ・この事業を中止又は延期したときに、この道路によって利益を受ける方々の反応はどうか。
⇒・利益を受ける港湾利用者の方々には、現在の状況を説明し、ご理解いただいている。
 - ・元々、この事業は富山港の機能強化の要望から始まった事業であり、臨港道路とは別に港湾施設を充実させる等、今後も港湾機能の強化を進めて欲しいとの声をいただいている。

（委員）

- ・現在、東側ふ頭と西側ふ頭を行き来しているルートではどういうことが支障となっているのか。今回、臨港道路を見直す場合には、支障を改善し、現行ルートを有効活用する取り組みを同時に検討いただきたい。
⇒・現在、ふ頭間の往来ルートは一般車両が通行する国道415号と県道を使用しているが、フォークリフト等の荷役車両は速度が遅いため、後ろの一般車両が渋滞すること、カーキャリア等の大型の車両がふ頭間を何度も往復するため歩行者の安全に注意が必要なことなどが支障となっている。
 - ・現行ルートの有効活用については、現在の状況を少しでも緩和できるよう、道路管理者として、道路の線形改良や局所的な交差点改良に取り組んでいる。

○小矢部川水系伏木一宮（砂防） （委員）

- ・コンクリート堰堤と鋼材を使用するダブルウォール堰堤とを比較して、後者を選んでいるが、ランニングコストについても十分に考慮してコスト縮減を検討すべき。
- ・鋼材の耐久性について、鋼橋だと定期的に塗装の塗替えを行うが、ダブルウォール堰堤は耐久性が保証されているのか。タイ材も鋼製で、外から見えない部分であるため堰堤内部に水が浸透するなどして腐食した場合に突然外れて崩壊することや、鋼矢板についても、

水が溜まるなどして局部的に腐食が進行することなど懸念があると考えている。

⇒・コンクリート堰堤との工法比較において、ライフサイクルコストとして何を見込むべきか確立された考え方はないため、現時点では初期費用だけで比較している。

- ・耐久性の観点から、ダブルウォール堰堤で使用する鋼材には必要な腐食しろ等を見込んでいるものであるが、ライフサイクルコストやメンテナンスの考え方については、今後、実績や技術が蓄積されていく中で、コンサルタントやメーカーの見解も踏まえ、検討してまいりたい。

【農林水産部説明に対する主な意見】

○農地防災事業

（委員）

- ・用排水施設整備事業において、水路の蓋がけ整備をしているが、それにより泥がとれない、掃除ができないなどのデメリットはないのか。
- ⇒・水路の全ての箇所には蓋がけをする訳でなく、山間地の断面の大きい所に蓋をかけるものであり、所々に水路断面を確認できる箇所も設けているので、デメリットはないものとする。
- ・山側の法面から土砂が流れて水路に詰まり、水路が壊れると、それだけに留まらず下流に泥流が流れ出るという被害が想定されるが、蓋がけ整備により、そういった被害も未然に防止できるので、メリットが大きいと考える。

○スマート農業について

（委員）

- ・事業再評価とは異なる視点だが、これからの農業は、スマート農業により生産性を高めていく必要があると考えるが、農業農村整備の事業とは別の部署の業務で関連性はないのか。
- ⇒・スマート農業を実現可能にするために圃場整備や用水路の整備を同時に進めている。小さな田んぼでスマート農業の導入は難しいため、大区画化や汎用化などの整備により、はじめてスマート農業が実現可能となることから、スマート農業の担当課とも連携しながら事業を進めている。

【全体に対する主な意見】

（委員）

- ・流域下水道など 30 年を超える長期間の事業について、当委員会で評価を行う際、事業全体の継続あるいは見直しといった判断は難しい。長期の事業は、社会・経済環境の変化に対してどのように対応しているのか、事業を進めるにあたってどのようなコスト削減の試みがなされているのか、ということをしかりと説明してもらえると我々の事業継続に向けた理解がより深まる。